

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第467390173号
法人名	コロンブス(株)
事業所名	グループホームのどか
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町求名13564番地 (電話) 0996-57-1513
自己評価作成日	平成24年1月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春になると鳥の音が響き、夜には蛍が飛びかい・夏には蝉が鳴き、年間通じて自然を感じることが出来ます。
一日一日をのんびりと、のどかに過ごせるようにお手伝いをする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩町の自然豊かな環境に建てられているグループホームである。フロアからは山あいの景色が一望でき、ホーム裏の庭園では桜や梅や桃などの花見ができ、夏はホテル観賞も楽しめる。広い敷地は四季を感じながらの散歩に最適な環境にあり、利用者はのどかなスローライフを送っている。
利用者が安全でその人らしい生活を送れるように「地域で一番安心して家族を預けられる処」という「のどかの目標」を掲げ、日常生活においてリスクを伴うことについては、個々に応じて細かい工夫と配慮がなされている。また、理念についても「これまで暮らしてきた地域においてそれぞれの持つ人間関係を大切にし、その人らしく暮らせることを支える」とあり、職員に地域交流委員を設置して各地域の情報収集を行い、地域行事やサロンに参加してなじみの関係を断ち切らないように支援している。
介護計画の作成及び見直しについては、利用者の少しの変化も見逃さないように日々の申し送り、毎月の職員会議とケアカンファレンスはもちろんのこと、一人の利用者の介護計画を全職員が目を通して、気づきや変更点などを更にチェックするなど、ケアの統一と見落としのない細かい配慮がなされている。重度化や看取りの対応も、看護師を中心とした勉強会を開いたり、避難訓練後に緊急時対応の講習を行うことで、職員は不安なく取り組めるように実践力を身につけている。
管理者、職員の利用者に対する温かい思いが伝わってくるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に運営理念を復唱を行っている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。理念は毎朝唱和し、職員会議などで確認をすることもある。また、理念とは別に「ホームの目標」「就業者心得」「共に感じやすらぎを」も作成し、業務にあたり大切なことを職員に意識づけている。理念はパンフレット、重要事項説明書、ホーム便りにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンやふれあいフェスタ等の見学や参加を行っている。	薩摩町の夏祭りや文化祭見学、小学校の運動会見学、地域のサロンなどに出かけて交流に努めている。保育園児との交流会は毎年行っており、年賀状が届くことなどは利用者の楽しみにもなっている。また、ホームの催し物やホテル見学などにも地域の方々が訪れ、民生委員の見学や地域ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方や民生委員会等に参加したり事業所を見学して頂いたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。 入居者の現状や変化・各種行事等について報告を行い、希望や意見等を聞くように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域住民代表・民生委員・福祉アドバイザー・家族・職員・行政などの参加で定期的に開催している。ホームの状況報告や行事報告、ヒヤリハット事例及び改善策の報告などが行われている。参加者からケアプランについての質問があり、次の開催時に説明して、業務についての理解と協力が得られる機会になるなど、毎回、充実した内容の会議となっている。	

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。長寿のお祝いなどで市の職員がホームに訪れることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のカンファレンス時に、話題としている。事業所内の勉強会にて必ず勉強会を行っている。	身体拘束廃止委員会を設置するなどして身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、マニュアルを作成し、定期的な勉強会や振り返りの機会を設け、職員の意識付けを行っている。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会にて行ったり、勉強会へ参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自で、勉強会へ参加したりしている。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、管理者や計画作成担当者より説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等に聞いている。	利用料の支払いをホームに持参してもらうようにしており、毎月、家族の面会の機会を作って家族から意見、要望などを聞き出すようにしている。また、年2回家族と親睦会を行い、家族が意見・要望を表しやすい関係作りに努めている。出された意見・提案は職員全員で話し合っ、改善に結び付けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや家長を通して話し合い等を行っている。	朝礼、毎月の職員会議等で意見交換や話し合いを行っている。また、職員育成にも繋がるように、各委員会や役割分担（ユニット長・身体拘束廃止委員・環境整備・消耗品管理・食材在庫確認・レクレーション・健康管理・防災管理・広報・親睦会・地域交流委員）をしており、専門的分野からの意見・提案など運営に反映させるようにしている。また、資格取得に向けた支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題が生じた時に、代表者や社長と話し合いを行っている。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>機会がある時に、数名ずつ研修へ参加している。(研修の日は、勤務に支障がないようにしている。)</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>勉強会や講演会の参加するように努めている。</p>			

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話などより共通点を見つけ、話の中に取り入れたりしている。少しでも、安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態・状況把握を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に見合った、残存機能を少しでも残すようにする。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な行事等への参加の呼びかけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンや行事等へ参加するようにしている。	地域行事への参加や自宅訪問、墓参り、美容室、なじみの店での買い物、選挙など入居後も関係が途切れることのないように支援している。また、友人・知人の訪問を受けたり、ホームより知人宅へ連れて行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室等の座る席を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取るようになっている。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に合わせて居室作りを行っている。	すべての支援、援助は本人の意思確認をしてから行うように心がけている。会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は本人が選択できるようにいくつか提案したり、表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。聴覚障害のある利用者には身振り・手振りで意思疎通が図れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使用していた家具を使用するようにしている。 記録関係は、事務所に置きいつでもみれるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスや状態を見ながら個別の話し合いを行う用にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と共に介護計画の作成を行っている。 各利用者に担当職員がいる。	本人、家族、主治医の意見を取り入れながら、本人本位の介護計画を作成している。また、ケアの統一を図るためにも、毎月、全職員参加のケアカンファレンスでサービス内容について話し合いを行い、必要があれば見直しすることで全職員に再度目を通してもらい、気づきや変更など更にチェックするように工夫している。なじみの関係継続や入居前からの趣味や生活習慣の継続などサービス内容に取り入れて支援している。	

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務・夜勤日誌・個人記録を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変化して時は、ミニカンファレンスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会や集落サロンへの参加を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ、入居前よりの主治医へかかっている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、在宅医療による往診もある。必要に応じて職員が同行しているが、家族だけで受診に連れて行く際は主治医あてに手紙を書き、連携を図れるようにしている。また、常勤の看護師による健康管理が密にされており、家族の安心に繋がっている。	

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、連絡が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にも、面会や病院側と連絡をとり状況把握を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医・看護職員と共に連絡を摂っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時にホームの方針を説明している。また、利用者の身体状況に応じて、主治医の指示のもと家族と話し合い、必要に応じて「看取り委託契約書」を交わしている。これまでも看取りの経験もあり、職員は看護師を中心とした勉強会や緊急時対応の講習などを受講し、不安なく支援に取り組めるように実践力を身につけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練等でも急変時や応急手当の講習を受けるようにしている。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月、防災訓練を実施している。</p>	<p>年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。また、ホーム敷地で地元消防分団による放水訓練も行っており、ホームの避難体制を確認してもらっている。あらゆる場面を想定した自主訓練も毎月行っており、職員が実践力を身につけられるように取り組んでいる。スプリンクラー、通報システムは設置済みである。</p>	

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	各自、自室は個室である。	人生の先輩として尊厳の気持ちをもって接するように心がけている。職員会議で話をする機会もあり、職員の意識向上に向けて取り組んでいる。		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	一つの物だけでなくいくつかの物を掲示し選択できるようにしている。			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	天候の良い日は屋外の散歩を行ったり、室内でもボール遊びや歌を唄ったり紙芝居を見たりと楽しめるように工夫をしている。			
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	男性の方は、毎朝ひげそりを行う用にしている。また、入浴時には洋服がどれがよいか聞くようにしている。			
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	各テーブルに職員が付き、話を行いながら食事をするようにしている。	家庭菜園の収穫を楽しんだり、つるし柿、そばうち、もちつき、あくまき、団子作りなどを利用者に教わりながら作っている。また、誕生日は季節に応じてロールケーキやプリンなどで喜んでもらえるように工夫している。晩酌のビールやコーヒー、お菓子を準備している利用者もいる。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアをその方のレベルに合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記載により把握し時間誘導や介助を行っている。	時間ごとの排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、排せつの自立に向けた支援を行っている。日中は職員の声かけ誘導でトイレでの排せつを支援しており、自立している利用者には継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・15時のお茶の際にオリゴ糖を飲用するようにしている。また、主治医の指示や看護職員の指示により緩下剤を使用するようにしている。		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	身体が汚れた等は、常時入浴出来るようにしている。	毎日入浴する利用者もおり、時間帯や入浴回数など個々の希望や身体状況に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具をいつでも気持ち良く使用できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ここの服薬表を事務所内においてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること(洗濯物干し・洗濯物たたみ・新聞折り・ちり紙折り・食材の下ごしらえ等)を手伝っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や図書館・ドライブ等に出かける。	日常的には外気浴、散歩、買い物、ドライブなどで外出の支援を行っている。また、個別支援として自宅訪問や墓参り、知人宅訪問、地域のサロンなどにも出かけている。他にも、地域行事の見学、季節の花見や紅葉狩り、初詣など普段行けないような場所への外出支援も行っている。	

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭的に関心を示している方は、所持しているが持っていない方が多い。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>毎月、担当職員が手紙を記載している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員内で環境整備の担当の方がおり清掃している。 毎月、手作りカレンダーの色塗りを行い自室に飾っている。</p>	<p>共用空間は広く明るく、開放的で利用者が居心地良く過ごせるように配慮されている。事務所を中心に2ユニットに分かれているため、利用者が自由に行き来でき、閉塞感がない。廊下から見える裏山の庭園は、季節に応じ梅・桃・桜・ほたるなどを見ることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>談話室に畳やソファを置いている。</p>		

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や箸・コップを使用している。</p>	<p>入居の際に使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように、家族に説明している。ベッド・テレビ・回転いす・ホットカーペットに座イス・家族の写真や飾り物などが持ち込まれ個別性があり、居心地良く過ごせる居室である。また、身体状況に応じて畳に布団など安全に過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各個人に合わせて室内の手すりや段差解消を行っている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームのどか 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない